

## 平成 29 年度防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立宮古恵風支援学校

**I 事業の概要（地域の実情含む）**

本校は、宮古市の北部に位置し、知的障がい、肢体不自由を対象とした特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の3学部が設置されており、医療的ケア対象の児童生徒も数名在籍している。隣接する岩手県沿岸知的障害児施設組合はまゆり学園に入所の児童生徒もいるが、ほとんどの児童生徒は自宅からスクールバスや保護者自家用車による送迎により通学している。

本校では「児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、明るく 強く 心豊かに生きる人間を育てる」ことを教育目標としており、本事業の実践をとおして、児童生徒の実態や発達の状況に応じて防災教育・復興教育にかかわる学習活動に取り組み、生命の大切さ・心身の健康や地域づくり、防災や安全についての意識の向上と主体的に行動する態度の育成を図ることを目的とし、以下の目標を掲げている。

（1）自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、生命の大切さを実感し、周囲の環境を理解しながら自分自身で心身の健康を維持しようとする児童生徒を育てる。【いきる】

（2）被災地にある学校として、地域行事への参加、近隣の学校との交流あるいは作業製品の製作及び地域での販売等の活動に積極的にかかわることで、人々とのつながりと絆を感じ、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。また、地域の伝統行事、郷土芸能に意欲的に取り組むことで、自己肯定感を育むとともに主体的に地域づくりにかかわる態度を育てる。【かかわる】

（3）年間をとおして、地震、火事等を想定した避難訓練、不審者等を想定した防犯教室、安全な登下校のための交通安全教室などに取り組み、今後起こりうるさまざまな災害や事故等の非常事態に対応できる力を養う。特にも、本校は山間地に立地しており、学校周辺の通学路には土砂災害の危険箇所が多数存在する。大雨・大雪等による土砂災害発生時は、通学路が寸断され学校が孤立する危険性もあるため、学校が孤立した場面を想定した訓練を実施することにより、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く知識と技能を身に付ける。【そなえる】

\* 【いきる】【かかわる】【そなえる】は、いわての復興教育における3つの教育的価値からの表記である。

**II 取組の概要**

## 1 全校での取組

## (1) 避難訓練（年3回）

## ア ねらい

- ・地震・火災発生時を想定し、教師の指示に従って避難経路を通り、安全かつ迅速に避難する。

## イ 内容

## 1回目：地震・放送機器使用不可



## 2回目：火災・煙体験



## 3回目：地震・予告なし



## (2) 全校朝会（緊急地震速報の訓練）

## ア ねらい

- ・緊急地震速報が鳴ったときの安全な身の守り方について知る。

## イ 内容

- ・全校集会の際に、緊急地震速報を聞き、安全な身の守り方について確認する。



## 2 各学部での取組

### (1) 小学部 4・5年 校外での防災・復興学習

#### ア ねらい

- ・釜石市の復興に向けた現在の様子を知ること、防災や安全についての意識の向上を図る。

#### イ 内容

- ・イオンタウン釜石やその周辺の防災と復興の様子を見学する。
- ・調べ学習やインタビュー活動を行い、学習を深める。



### (2) 中学部 校外での防災・復興学習

#### ア ねらい

- ・復興状況や産業振興に関わる学習をとおして、自らのあり方や生き方について理解を深める。

#### イ 内容

- ・宮古～山田～釜石の復興の状況を見学する。
- ・イオンタウン釜石の災害対策についての説明を聞いたり、見学・体験をとおして自分の身の守り方や命の大切さについて考えたりする。



### (3) 高等部 奉仕活動

#### ア ねらい

- ・地域貢献の良さを感じながら、美化を意識した活動に積極的に取り組む態度を培うとともに地域との関わりを広げる。

#### イ 内容

- ・プランターに花植えを行い、スクールバスの停車場所である千徳公民館、宮古駅前に設置する。
- ・グループに分かれ、宮古駅周辺のゴミ拾いを行う。



## Ⅲ 取組の成果と課題

### 1 取組における成果

- (1) 小学部・中学部・高等部において校外での様々な体験をとおして防災と復興に関する学習を行い、防災や安全、復興状況を理解するとともに、非常時に生き抜く知識と技能を身に付ける子との大切さに気付くことができた。
- (2) PTA行事で非常食の試食と復興教育の取組を紹介した。保護者の感想として「いざというきのために非常食の作り方を知り、実際に味わうことができて良かった」「学校での学習を見て家でも話してみたいと思う」と良好な意見が多かった。
- (3) 職員研修を3回実施し、宮古市内で想定される災害やその対処方法、避難場所等を確認し、本校での復興・防災教育を推進するための情報を教職員間で共有することができた。今後の児童生徒への学習に見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

- (1) 今後の防災教育においては、カリキュラムの自校化を進め、児童生徒が主体的に参加し、復興と防災について知識や技能の広がりや深まり、実践的な力が育てられるように様々な活動や校外学習等を計画的に実施する。
- (2) 東日本大震災等を踏まえた学習を実施する際には、被災した児童生徒や保護者の心理状態等に十分配慮するよう周知を行う。また、必要に応じてスクールカウンセラーと連携し、研修会等で適切な支援方法や配慮すべき事柄を確認する。
- (3) 次年度は、より地域や近隣の小中学校・保護者との連携を密にし、安全・安心な学校運営について情報交換や意見交換等を行い、必要に応じて災害対策のための危機管理マニュアルの見直しや新規作成など本校の特色に合わせた復興教育を進めていきたいと考える。